

中川純男先生略年譜・業績一覧

略年譜

- 昭和 23 (1948) 年 9 月 18 日 広島市生まれ。
- 昭和 39 (1964) 年 3 月 広島修道中等学校卒業。
- 昭和 42 (1967) 年 3 月 広島修道高等学校卒業。
- 昭和 46 (1971) 年 3 月 京都大学文学部哲学科卒業。
- 昭和 48 (1973) 年 3 月 同大学院文学研究科修士課程修了。
- 昭和 51 (1976) 年 3 月 京都大学大学院文学研究科博士課程修了。
- 4 月 日本学術振興会奨励研究員 (1978 年 3 月まで)。
- 4 月 関西大学文学部講師 (兼任) (1990 年 3 月まで)。
- 昭和 53 (1978) 年 4 月 大阪教育大学教育学部講師 (1983 年 3 月まで)。
- 昭和 56 (1981) 年 4 月 京都大学文学部, 同大学院文学研究科講師 (兼任) (1993 年 3 月まで)。
- 昭和 58 (1983) 年 4 月 大阪教育大学教育学部助教授 (1993 年 3 月まで)。
- 同年 4 月 京都大学教養部講師 (兼任) (1993 年 3 月まで)。
- 平成 3 (1991) 年 4 月 九州大学文学部, 同大学院文学研究科講師 (兼任) (1992 年まで)。
- 中世哲学会 常任理事。
- 平成 5 (1993) 年 4 月 慶應義塾大学文学部教授に就任。
- 平成 6 (1994) 年 筑波大学大学院哲学思想研究科非常勤講師 (集中講義)。
- 平成 7 (1995) 年 中世哲学会 編集委員 (1996 年まで)。
- 大阪大学文学部非常勤講師 (集中講義)。
- 平成 8 (1996) 年 慶應義塾大学大学院文学研究会員。
- 名古屋大学文学部非常勤講師 (集中講義)。
- 平成 9 (1997) 年 大学院文学研究科委員長補佐 (1999 年 3 月まで)。
- 広島大学文学部非常勤講師 (集中講義)。
- 平成 10 (1998) 年 大阪大学文学部, 大学院文学研究科非常勤講師 (集中講義)。
- 平成 11 (1999) 年 学習院大学非常勤講師 (集中講義)。
- 大阪大学文学部, 大学院文学研究科非常勤講師

- (集中講義)。
 アイランド、ダブリン大学トリニティカレッジ
 に留学(2002年3月まで)。ディロン教授に師事。
 平成14(2002)年 慶應義塾大学 言語文化研究所所長に就任。
 『存在と知——アウグスティヌス研究』(創文社)、
 義塾賞を受賞。
 平成17(2005)年 北海道大学文学部非常勤講師(集中講義)。
 平成18(2006)年 東京工業大学大学院非常勤講師(春学期)。
 平成19(2007)年 慶應義塾大学文学研究科委員長に就任(2009年9
 月30日まで)。
 東京工業大学大学院非常勤講師(春学期)。
 東北公益文科大学講師(特別セミナー)。
 平成20(2008)年 『哲学の歴史』(編著,中央公論新社),第62回
 毎日出版文化賞特別賞を受賞。
 東京工業大学大学院非常勤講師(春学期)。
 平成21(2009)年 慶應義塾大学文学部長に就任。
 平成22(2010)年 4月9日 逝去(享年61歳)。

(田子山和歌子編)

主 要 業 績

著 書

- 平成12(2000)年 『存在と知——アウグスティヌス研究』創文社
- 著書(編著)**
- 平成8(1996)年 『西洋哲学史〔古代・中世編〕——フィロソフィアの源流と伝統』内山勝利と
 共編著,ミネルヴァ書房,「ストア主義の展開」「中世編概観」
- 平成9(1997)年 『観想と実践——古代ギリシアからルネサンス期にいたる』牛田徳子・坂口昂
 吉と共編著,慶應義塾大学言語文化研究所,「キリスト教的生における観想
 と実践——アウグスティヌスにおける」
- 平成14(2002)年 『西洋精神史における言語観の諸相』慶應義塾大学言語文化研究所,「認識とこ

とば——アウグスティヌスにおけることばの概念」

平成 17 (2005) 年

『中世哲学を学ぶ人のために』加藤雅人と共編著, 世界思想社, 「創造の思想」

平成 19 (2007) 年

Corners of the Mind: Classical Traditions, East and West. Neil McLynn・西村太良と共編著, 慶應義塾大学 21 世紀 COE 心の統合的研究センター・慶應義塾大学出版会, 「The known is in the Knower according to the Mode of the Knower—Aquinas' Theory of Knowledge and the *Book of Causes*—」

平成 20 (2008) 年

『神との対話・中世 信仰と知の調和』『哲学の歴史』第 3 卷, 中央公論新社, 「総論」「アウグスティヌス『三位一体論』・教会・『神の国』」

著書 (共著)

昭和 60 (1985) 年

『哲学の原型と発展・哲学の歴史 1』大森荘蔵・中村雄二郎・滝浦静雄・藤沢令夫編「新・岩波講座哲学」第 14 卷, 岩波書店, 「アウグスティヌスとキリスト教神学」

昭和 63 (1988) 年

『哲学とはなにか——その歴史と可能性』竹市明弘・常俊宗三郎編, 勁草書房, 「中世哲学」

平成 4 (1992) 年

『中世における知と超越——思索の原点をたずねて』K. リーゼンフーバー・谷隆一郎・山本耕平・荒井洋一編, 創文社, 「内在としての存在——アウグスティヌス『ソリロキア』, 『魂の不死』における」

平成 10 (1998) 年

『岩波 哲学・思想事典』廣松渉・子安宣邦・三島憲一・宮本久雄・佐々木力・野家啓一・末木文美士編, 岩波書店, 「クリュシッポス」「ストア派」「ゼノン (キュプロスの)」

平成 11 (1999) 年

『エチカとは何か——現代倫理学入門』有福孝岳編, ナカニシヤ出版, 第 1 章「古代・中世の倫理思想——原理的考察——」

平成 13 (2001) 年

『カルキディオウスとその時代』西洋古代末期思想研究会編, 慶應義塾大学言語文化研究所, 「初期ストア派の倫理観とキケロの証言——一生の目的と価値」

平成 16 (2004) 年

『西洋精神史における言語観の変遷』松田隆美編, 慶應義塾大学言語文化研究所, 「意味と指示——トマス『真理論』から」

平成 17 (2005) 年

『イリソスのほitori——藤澤令夫先生献呈論文集』内山勝利・中畑正志編, 世

界思想社、「美しいものは美しい——『パイドン』における同一性命題の意味」

平成 18 (2006) 年

『西洋精神史における言語と言語観——継承と創造』飯田隆編，慶應義塾大学言語文化研究所，「探求する理性——アウグスティヌス『ソリロクィア』から」

平成 21 (2009) 年

『西洋哲学の 10 冊』左近司祥子編「岩波ジュニア新書」岩波書店，「自分の中で自分に出会う——アウグスティヌス『告白』」

監 修

平成 11 (1999) 年

ブライアン・マギー『知の歴史——ビジュアル版哲学入門』日本語版監修，BL 出版

平成 13 (2001) 年

マイケル・コリンズ，マシュー・A. プライス『キリスト教の歴史——2000 年の時を刻んだ信仰の物語』間瀬啓允と日本語版共監修，BL 出版

平成 22 (2010) 年

Interdisciplinary Ontology—Proceedings of the Third Interdisciplinary Ontology Meeting, February 27th–28th, 2010, Tokyo Tokyo: Keio University Press, 2010. Barry Smith・溝口理一郎と共編，慶應義塾大学文理融合型「論理学とフォーマルオントロジー」オープンリサーチセンター

学術論文

昭和 50 (1975) 年

「アウグスティヌスとプラトンにおける「分有」」『中世思想研究』（中世哲学会）第 17 号

昭和 52 (1977) 年

「エイドスとことば——プラトン『ソピステス』から」『古代哲学研究』（古代哲学談話会）第 9 号

昭和 55 (1980) 年

「アトムの不可分性について——レウキッポス，デモクリトスの解釈をめぐって」『西洋哲学史研究』（西洋哲学史研究会）第 1 号

「懐疑の克服——Augustinus, *Contra Academicos* をめぐって——」『大阪教育大学紀要 第 I 部門 人文科学』（大阪教育大学）第 28 巻第 2/3 号

昭和 56 (1981) 年

「infantia mea olim mortua est...——アウグスティヌスにおける「私」の意識——」『大阪教育大学紀要 第 I 部門 人文科学』第 29 巻第 2/3 号

昭和 57 (1982) 年

「beatos nos esse uolumus——Augustinus, *De beata uita* をめぐって——」『大阪教育大学紀要 第 I 部門 人文科学』第 31 巻第 1 号

昭和 58 (1983) 年

「アウグスティヌスにおける「知」の理解——*Contra Academicos* を中心に」『中世哲学研究』(京大中世哲学研究会) 第 2 号

昭和 59 (1984) 年

「知るもの, 知られるもの——アウグスティヌス『ソリロクシア』における魂不死論証を中心に」『中世思想研究』第 26 号

昭和 61 (1986) 年

「知ること, あること——アウグスティヌス『三位一体論』における精神の実体概念について」『中世思想研究』第 28 号

昭和 62 (1987) 年

「イデアと観念——アウグスティヌスのイデア論」『理想』(理想社) 第 636 号 (特集 イデア論の現在)

昭和 63 (1988) 年

「Non dubia, sed certa conscientia-Augustinus, *Confessiones* X, 6, 8」『中世哲学研究』第 7 号

平成元 (1989) 年

「生命——アリストテレスの視点から」(課題研究発表)『関西哲学会紀要』(関西哲学会) 第 23 号

「アウグスティヌス」『季刊哲学』(哲学書房) 第 6 号 (第 3 巻第 1 号)

「神の名——ことばと概念」『季刊哲学』第 7 号 (第 3 巻第 2 号)

「『三位一体論』におけることば論」(提題) (シンポジウム: 中世における〈ことば〉)『中世思想研究』第 31 号

平成 4 (1992) 年

「認識の確実性——懐疑主義とアウグスティヌス」『大阪教育大学紀要 第 I 部門 人文科学』第 41 巻第 1 号

平成 8 (1996) 年

「知と真——アウグスティヌス『教師論』における」『哲学』(三田哲学会) 第 100 集

「ことばと真理——アウグスティヌス『教師論』における問題の所在」『パトリスティカ——教父研究——』(教父研究会) 第 3 号

平成 9 (1997) 年

「自己知——新プラトン主義の論理とその射程」『アルケー』関西哲学会年報 (関西哲学会) 第 5 号

「significare と praedicari——トマス『有と本質』における」『人間存在論』(京都大学大学院人間・環境学研究科 総合人間学部『人間存在論』刊行会) 第 3 号

- 「生きることの意味——アウグスティヌスの幸福論」『国士館哲学』（国士館大学哲学会）第1号
平成10（1998）年
「secretiore indigentia—*Conf.* III, 1, 1」『中世哲学研究』第17号
「西洋古代思想における実体概念」『比較思想研究』（比較思想学会）第25号別冊
「アウグスティヌスにおける真理概念」平成8-10年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書基盤研究（C）08610013
平成11（1999）年
「イデアと存在——『パイドン』の想起説」『古代哲学研究』（古代哲学会）第31号
平成12（2000）年
「アリストテレスと西欧中世」『論集 古典学の再構築』平成10-14年度文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究（A）118「古典学の再構築」研究成果報告集I
平成14（2002）年
“Recollection and Forms in Plato's *Phaedo*”, in *Hermathena: A Trinity College Dublin Review*, No. 169. John Dillon, ed. *Essays on the Platonic Tradition*. Dublin: University of Dublin, 2002.
平成15（2003）年
「超越性と可能性—中世におけるアリストテレスの受容」『論集 近現代社会と古典』平成10-14年度文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究（A）118「古典学の再構築」研究成果報告集VIII
「心はすべて——西洋古代の文献資料に見る心とことば」（共同研究・研究代表）『平成14年度文部科学省21世紀COEプログラム研究拠点形成費補助金——心の解明に向けての統合的方法論構築 平成14年度成果報告書』慶應義塾大学21世紀COE人文科学研究拠点 心の統合的研究センター
平成16（2004）年
「心性概念の比較研究——心の持続性あるいは魂の不死についての中間報告」『平成15年度文部科学省21世紀COEプログラム研究拠点形成費補助金——心の解明に向けての統合的方法論構築 平成15年度成果報告書』慶應義塾大学21世紀COE人文科学研究拠点 心の統合的研究センター
平成17（2005）年
「アウグスティヌスにおける確実性の概念——『告白』第七巻から」『パトリスティカ——教父研究——』第9号
「生の滞りなさ——初期ストア派の倫理学とその前提」『思想』（岩波書店）第971号
「認識の様態——トマス認識論の基本原則」『中世哲学研究』第24号

平成 19 (2007) 年

「初期ストア派の倫理学における「自然本性」の概念」『ギリシャ哲学セミナー論集』(ギリシャ哲学セミナー) 第 4 号

平成 20 (2008) 年

「初期アカデメイア」(コラム)『哲学誕生・古代 I 始まりとしてのギリシア』(内山勝利編)「哲学の歴史」第 1 巻, 中央公論新社

平成 21 (2009) 年

「アウグスティヌスの真理論」『理想』第 683 号 (特集 中世哲学)

「魂のロゴスの部分」(シンポジウム: ストア哲学と新プラトン主義)『新プラトン主義研究』(新プラトン主義協会) 第 9 号

「中世哲学とストア派論理学」〈序説〉(シンポジウム: 中世哲学とストア派論理学——東西教父からスコラ前夜まで——)『中世思想研究』第 52 号

「ストア哲学における言語理論と存在理解」平成 17-20 年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究 (C) 17520025

翻 訳

昭和 61-62 (1986-87) 年

「キケロ『アカデミカ後書』第一巻」『アール・リベロー』(大阪教育大学フランス語教室) 第 1, 2 号

平成 8 (1996) 年

「サン=ヴィクトルのゴドフロワ『哲学の泉』」『中世思想原典集成』第 9 巻
「サン=ヴィクトル学派」(上智大学中世思想研究所編・泉治典監修) 平凡社

平成 12 (2000) 年

ゼノン他『初期ストア派断片集 1』西洋古典叢書, 京都大学学術出版会

平成 15 (2003) 年

クリュシッポス『初期ストア派断片集 4』(山口義久と共訳) 西洋古典叢書, 京都大学学術出版会

平成 18 (2006) 年

クリュシッポス他『初期ストア派断片集 5』(山口義久と共訳) 西洋古典叢書, 京都大学学術出版会

書評・文献紹介 (主要なもの)

昭和 49 (1974) 年

Franz K. Mayr, *Trinitat und Familie in De Trinitate XII*. 1972, 『中世思想研究』第 16 号

昭和 57 (1982) 年

John Kevin Coyle, *Augustine's "De moribus ecclesiae catholicae", A Study of the Work, its Composition and its Sources*. 1978, 『中世哲学研究』創刊号

昭和 60 (1985) 年

Isabelle Bochet. *Saint Augustin et le Désir de Dieu*. 1982, 『中世哲学研究』第 4 号

昭和 61 (1986) 年

Pierre Hadot. *Exercices Spirituels et Philosophie Antique*. 1981, 『中世哲学研究』第 5 号

昭和 62 (1987) 年

Jean Pépin. *Théologie cosmique et théologie chrétienne (Ambroise, Exam. I I, I-4)*. 1964, 『中世哲学研究』第 6 号

昭和 63 (1988) 年

茂泉昭男著『アウグスティヌス研究——徳・人間・教育』教文館, 1987 年, 『中世思想研究』第 30 号

平成 4 (1992) 年

Johannes van Oort. *Jerusalem and Babylon, A Study into Augustine's City of God and the Sources of his Doctrine of the Two Cities*. 1991, 『中世思想研究』第 34 号

平成 6 (1994) 年

Colin Starnes. *Augustine's Conversion: A Guide to the Argument of Confessions I-IX*. 1990; James J. O'Donnell. *Augustine, Confessions*, 3 vols. 1992, 『中世思想研究』第 36 号

平成 9 (1997) 年

「表現と解釈——荒井洋一『アウグスティヌスの探求構造』」『創文』(創文社)第 390 号

平成 10 (1998) 年

A. A. Long. *Stoic Studies*. 1996, 『西洋古典学研究』(日本西洋古典学会)第 46 号

平成 18 (2006) 年

John Dillon. *The Heirs of Plato: A Study of the Old Academy (347-274 BC)*. 2003, 『西洋古典学研究』第 54 号

(佐藤真基子編)